

### 1.[全道フォーラム2010]概要・開会

今年もシーニックバイウェイ北海道全道フォーラムが開催され、全道各ルートの活動団体、関係機関および企業や一般市民の方々など約250名の参加がありました。

- 【日時】 2010年11月27日(土) 13:00~18:40
- 【会場】 あけぼのアート&コミュニティセンター  
(札幌市中央区南11西9-4-1)
- 【参加】 無料
- 【主催】 北海道推進協議会
- 【次第】



**Scenic Byway HOKKAIDO**  
2010年11月27日(土)  
13:00~18:40  
会場:あけぼのアート&コミュニティセンター(札幌市中央区南11西9-4-1)  
主催:シーニックバイウェイ北海道推進協議会

地域に暮らす人が主体となり、企業や行政と手を結び、観光や経済を創出していく「連携づくり」種がある地域活性化を実現しているシーニックバイウェイ北海道は、本格的に活動している年を迎えました。  
このたび、各ルートの活動紹介・意見交換等を目的として「シーニックバイウェイ北海道全道フォーラム」を開催いたします。今回は、以下の通り新みやまの活動紹介のセッションもご用意しております。  
みなさま、ぜひお越しください。

【タイムテーブル】  
13:00 開会(新ルート紹介ほか)  
13:25 シーニックバイウェイ活動紹介&テーブルセッション  
※各ルートの活動紹介  
17:30 全道・全国 活動セッション  
※各ルートの活動紹介  
※北海道観光局との連携  
18:45 閉会

シーニックバイウェイ北海道  
マップ

参加無料

#### あいさつ



開会告知のあと、「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」高向 巖会長のメッセージが紹介されました。

#### 新ルート紹介



2010年5月の新ルートに指定されました「十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間」の野村文吾代表より、新たな活動への決意の言葉をいただきました。

#### ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2009

昨年度の「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト」に選ばれた2つの活動を紹介、各ルート代表より活動への取り組みなどをお話していただきました。



■ウインターサーカス  
(大雪・富良野ルート)  
谷川氏の挨拶



■カフェ連携  
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)  
桐木代表の挨拶

### 2.活動紹介[1ブロック]

#### 十勝シーニックバイウェイ 南十勝夢街道(候補)

「夢を育む海と大地と清流の道」がルートストーリー。子ども達のために、自然と環境を大切に、地域の魅力を再発見する。歴史と文化を活かしながら地域活性化を目指す。観光・景観・地域づくりで未来に繋がる夢を育む。「花と緑のネットワーク連携事業」「シーニックカフェ事業」、「様々なドライブマップの製作」、「フォトコンテスト実施」他。自然、太古のロマン、未来への夢に近づける場所を大切に地域を活性化していきたい。(代表:加藤 修治 氏)



#### どうなん・追分シーニックバイウェイルート(候補)

歴史・文化・体験・食・観光をベースとした地域づくりをルートストーリーに、これを軸とした連携と活動を目指す。積極的な「コミュニケーション広場作り」「キャラクター作成」、「イベント」などを展開。町内が連携しての、花のプランター、竹かごランタンでの景観づくりや100人位の生活に基づいた歴史を語る語り部の養成と、来訪者との交流を図るという取り組みを江差で始めた。持続可能な活動をしていきたい。(江差町:室谷 元男 氏)



#### 札幌南シーニックバイウェイ(候補)

都市と自然が調和する地域づくりがルートストーリー。都市、自然、観光施設、体験メニューを活かした「住んでよし、訪れてよしの都市空間」を目指して活動している。「植栽活動」「スタンプラリー」、「オクトーバーフェストin滝野」や、「魅力発見バスツアー」を開催。「テーマ別PRマップの作成」。隔月発行のフリーペーパーでのPR活動。ルート内の連携の拡大をし「住んでよし、訪れてよし」の「まちづくりの輪」を広げたい。(事務局:船木 利香 氏)



#### 十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間



「十勝型産業の創出と人口増加」をルートテーマにして、経済・ボランティア・連携活性化を循環的に活動していこうとしている。平成23年秋に、札幌～帯広間が高速道路利用で約2時間30分となり、さらなる経済効果が期待される。また、北海道ガーデン街道に代表されるような広域連携観光のビジネスモデルも確立されており、十勝シーニックバイウェイ3ルートと大雪・富良野ルート、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイを結ぶビジネス展開を目指している。(代表:野村 文吾 氏)



#### 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート



地道だけれど確実な道を進むように、常に6町間で情報共有をして連携を活動の軸にしている。連携の成果として「地域づくり総合交付金事業」を活用した「ルートマップ」の作成。また連携しながらの活動としては「ルート内の案内看板の設置検討」「十勝シーニックバイウェイ3ルートによるシーニック連携花壇」のルート内での広がり、新たな「シーニックカフェ」を検討している。また、馬で歩ける「馬の道プロジェクト」をルート内連携として進行中である。(代表:三井 福成 氏)



#### 萌える天北オロロンルート

「当たり前にあるものをしっかり見つめていこう」というのが活動の概念。「エゾカンゾウの植栽活動」「ヒラメの底立て網オーナー制度」などルート内に波及することで、シーニックに携わる参加者が増えている。活動が永く続き、やらされている感にならないよう、無理のない身の丈にあったもの、人の心に通じみんなで生きていくために、共有するものをゆっくりと深く浸透し、活動しようとする広域的なものをルートの精神としていこう活動していく。(代表:西 大志 氏)



### 3. テーブルセッション [1ブロック]



十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルートブース



萌える天北オロロンルートブース



十勝シーニックバイウェイトカプチ雄大空間ブース



十勝シーニックバイウェイ 南十勝夢街道 武内氏へのインタビュー



札幌南：事務局松木氏へのインタビュー



どうなん：室谷氏へのインタビュー

各ルートのテーブルを回る審査員や参加者

テーブルではルートの関係者による説明が行われた

会場内では、各ルートテーブルから、支援センターかとう氏による、レポート



推進協議会ブース



山麓：代表三井氏へのインタビュー



トカプチ：ライブコンシェルジュ清原氏へのインタビュー



萌天：代表西氏へのインタビュー

### 4. 審査委員からの助言・講評[1ブロック]

石田 東生 審査委員



筑波大学大学院  
システム情報工学研究科 教授

臼井 純子 審査委員



(株)富士通総研 取締役  
第一コンサルティング本部  
エグゼクティブ コンサルタント  
PPP推進担当理事

高野 伸栄 審査委員



北海道大学大学院  
工学研究院 准教授

#### 審査委員より

- ・ 十勝の3ルートそれぞれを紹介するパンフレットは充実しているが、十勝を訪れた人たちに対して、「こういう風にまわるといい」というものや、ルートの特徴を活かし、ルートが連携するような周遊コースの提案が欲しいところ。
- ・ 仕事や観光などで札幌を訪ねて来る人は多いが、意外に半日、一日、日中過ごす時間というのが札幌観光ではなかなか無く、大倉山や羊ヶ丘を訪れておしまいという事が多い。それで小樽(寿司、運河)に行ったりするわけだが、そんな中で、「札幌南シーニックバイウェイ」にはぜひ札幌南を観光の目的としていないような人をひっぱってくるような仕組みをつくってもらえればと思う。  
札幌というイメージが変わってくると思うし、そこから繋がる他のルートに対する「ゲートウェイ」という位置づけにもなると思う。そういうことを考えていくと、とてもたくさんの方が訪れるチャンスがあるのではないか。
- ・ 高速道路が徐々にできつつあり、色々なところが近くなって、色々な人が来てくれる。やはり高速道路は早いし、下道も渋滞が無くなりスムーズに走れるようになったように思う。それは非常に良いことだが、道の駅に立寄る人が少なくなったりとか、地元のガソリンスタンドの売上が減ったりといったことも起きている。  
そのようなことが起こらないよう地域(寄り道、わき道、ゆっくり道)を磨こうということで、シーニックバイウェイがはじまった。色々なところで、色々な工夫をして努力をして、頑張っているのが大丈夫とは思いますが、この動き、この流れは、更に加速をしていかねばと考える。



### 5.活動紹介[2ブロック]

#### 函館・大沼・噴火湾ルート

函館・大沼・噴火湾ルートでは、地域連携や人とのつながりを重視し、環境を軸とした活動を行いながら、交流人口の拡大を目指している。

今後の展望としては「シーニックdeナイト」と「光の小路」と連携しさらなる函館圏域の冬期観光客増加、観光地間の導線をつなぐ。「バスツアー」を軸に、企業等とも連携したカーボンオフセット型ツアーの拡大を目指す。道路空間のオープン化等の施策を活用した活動資金の獲得などを目指す。今後も夢を笑って語り、活動していきたい。  
(代表:折谷久美子氏)



#### 宗谷シーニックバイウェイ

宗谷のエリアの豊かな自然を守ることが、観光振興に繋がると思い、「暖かい最北の地」をルートテーマに自治体同士が手を取り合う活動している。

「環境部会」では環境保全に関して検討し、観光協会の「広域連携会議」ではフットパスの整備なども展開している。夏場には毎日ルート内の情報発信をしている。個々の町だけでは解決できない問題もシーニックをきっかけに問題意識の共有に繋がりに「観光協会長サミット」「民宿サミット」などの活動を通し、チャーター便の誘致などを実施

していきたい。  
(代表:岩間幹生氏)



#### 大雪・富良野ルート

私たちにとって「シーニック」とは、「合いことば」。共通の「ことば」として、一緒に地域を考え、共通の「こと」と「ば」を大切に、活動している。

代表事例として「ゴミゼロ活動」の広域化、「移動できる情報拠点」の開設、「ウィンターサーカスの開催」。ルート法人を中心としたルート活動組織の活性化。コミュニティビジネスの創出による成功事例の積み上げ。他ルートをはじめ、多様な分野・企業・団体との連携を進めている。

(事務局:菊地晴夫氏)



#### 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

「楽しく・仲良く・長く続ける」をキーワードに、「連携」と「おもてなし」をモットーにしている。

「シーニックカフェプロジェクト」はカフェ同士の連携を深めるように努め、「弟子屈飛行場跡地での森づくり」はドングリを拾うところから、森づくりの一步を始めた。「釧路空港でのPR看板の設置」手作りの木製看板を釧路空港に設置した。中標津空港にも設置するよう働きかけている。これからは、色々な立場や世代の人が楽しめるようなおもてなしルートを目指していきたい。(カフェプロジェクトリーダー:大橋勝憲氏)



#### 東オホーツクシーニックバイウェイ

「東オホーツクライフの確立と発信」景観づくり、観光振興、地域づくりをテーマに、斜里町・ウトロの冬の景観を整備した。マップ(vol.5まで発行)の配布とホームページと動画配信サイトを利用した情報発信をした。

「できることからトライしよう」「新しいアイデアを取り入れよう」「無理のない緩やかな連携からはじめよう」を考え方とし、参加しやすい仕組みづくりや活動の継続、地域への浸透及び観光客に向けた情報発信の拡大に努めていきたい。(事務局:奥山英明氏)



#### 支笏洞爺ニセコルート

シーニックとは、おもてなしの心を育む、「我が学舎(まなびや)」。活動初期は低学年。“仲間との輪づくり”と“感動する心”を育て、中学年になり“個性を尊重”したエリア毎の取組を重視し、他者(地域住民・来訪者等)への“思いやりの気持ち”を育んだ。高学年では個と集団との関わり合いについて意識し始め、少しずつ周囲にも目が向くようになった。今は更に上の学部入学に向けて、あらゆる活動や情報等の“伝え方の手段”を学んでいる。

(ニセコ羊蹄エリア:大川富雄氏/ウエルカム北海道エリア:久保純一氏/洞爺湖エリア:松山智巳氏)



### 6. テーブルセッション [2ブロック]



テーブルセッション会場の様子



東オホーツクシーニックハイウェイブース



九州・日南海岸きらめきライン ブース



函館・大沼・噴火湾ルートブース



推進協議会ブース



支笏洞爺ニセコルートブース



宗谷シーニックバイウェイルートブース



大谷・富良野・菊地氏へのインタビュー



釧路湿原・阿寒・摩周シーニックハイウェイブース



函館・大沼・噴火湾ルートブース

## 7. 審査委員からの助言・講評[2ブロック]・総評

## 審査委員より

- ・地道に積み上げた結果として活動が広がり、継続に繋がっているのは、評価すべきところ。日常の延長に活動があることが、それが続けていける秘訣でありノウハウ。他のルートにも広げていきたい。
- ・発表の中でも「活動の持続をどう保つか」という課題があったが、シーニックも年を重ねてきたからできた「一つの課題」であると感じる。日頃の活動に喜びを見いだしていく事が、活動の持続性に繋がる大きな課題になっていくのではないだろうか。
- ・最初は、あまりいいものが無いと話していたルートも、今では自身に満ち溢れてきている。持ちすぎは良くないかもしれないが、明るく、強く、やっていくということが、徐々に浸透してきて、それが色々なところのシーニックバイウェイに味を出してきている。辛いことがあるとは思いますが、ぜひ自信をもって、今の道を歩んでいただければと思う。若い力の参加が着実に進んでいることが、北海道のシーニックバイウェイの本当の強いところではないだろうか。
- ・釈迦の一生を、学ぶべき時期である「学生期」、家業について働く「家住期」、心を静かに行く末を考える「林住期」、放浪し解脱を目指す「遊行期」と表現することもある。シーニックも若々しい「学生期」などころがあれば、少し落ち着いた「林住期」などころもあって、こういった場で話をするのは良い機会。共通の志、(大雪・富良野ルートからの報告であったように)共通のコトとバが大事だと実感した。



### 8. 全道・全国活動セッション

#### 日本風景街道からの話題(九州・中国)

##### ■「道の駅」が担う地域の役割

九州・日南海岸きらめきライン・  
日南海岸地域シーニックバイウェイ  
推進協議会副会長  
横山 正 氏(「道の駅」なんごう駅長)



活動している南郷町は、日南海岸に属している宮崎の一番南下の所。温暖な気候と美しい海岸線に恵まれた漁業と観光の街だが、イベントをやらないと道路の通行止めなどが多いため、集客が難しい。グリーンライフツーリズムの一環として、地域ボランティアと連携しイベントを行っている。「ブリを丸ごと食べるイベント」や、年2回のゴミ拾いを開催。ジャカラダの花イベントは10年前から行っている。

##### ■<sup>おき</sup>隠岐風待ち海道の取り組み

～風景街道のブランド化を目指して～  
中国・隠岐風待ち海道協議会  
事務局 野辺 一寛 氏



隠岐は島根半島周辺の日本海に点在する4つの有人島と180の無人島からなる地域。本土から見て手前の3つの島を総称して島前(どうぜん)、それ以外を島後(どうご)と呼ぶ。地元民が地域を知ることから始めようと、大学と連携して隠岐学講座をスタート。「知ること」によって、「守っていく」自覚となるようガイドブックやルールブックも作成。また、隠岐の知名度をあげるために世界ジオパーク認定へ向けての活動にも参加、雇用も生まれている。

#### 講演◆ 道の神秘 ～道ばた・旅の道・稼ぎの道・新しい道～

国立大学法人 熊本大学大学院 社会文化科学研究科 教授 山下 裕作 氏

「限界集落論」というのは、単なる人口比率の「集計」に過ぎないのに、なぜか言葉だけが一人歩きし、限界集落の先に消滅集落になると言われている。しかし実際は「限界集落」が過疎化を原因として「消滅集落」になった事例はほとんどない。30年以上前から言われている限界集落のほとんどが現存している。予測を外した理由は何かという、自立的に解決できる能力を人が持っていたということ。枠や形を決めることで地域の自立を奪っていた。地域の人はず自分たちの持っているカードを並べてみる。並べるとそこにスジが見えてくる。それが自分たちのストーリーになる。「限界」は時として有利なことでもある。それは「フロンティア」になりえるということ。北海道は手足と単純な道具だけで土地を開いた子孫のいる土地である。今の人たちは手足・単純道具よりもっと多くのカードを持っているのだから、それを知ることでも生かすことができるはずである。

【プロフィール】 農林水産省中国農試験場総合研究部経営管理研究室 研究員、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部都市農村交流研究チーム 研究チーム長などを歴任。



#### 北海道の話題

一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター  
広報部長 かとう けいこ 氏



支援センターで編集・発行の情報誌「BYWAY」の配布数・主な配布先の報告。ローソン×北海道×シーニックバイウェイ北海道で行っている、「北海道グルメフェア」は、ルートの食の紹介とともに、QRコードを読み込むと、地域情報、イベント情報が入手でき、「お弁当を食べて地域を応援する」1年を通しての継続的取り組みであるということを説明。

#### シーニックバイウェイ北海道推進協議会から

シーニックバイウェイ推進協議会  
事務局 渡邊 政義 氏



制度を発足し6年。様々な社会情勢変化の中、活動は広く広がっている。今後の進め方や持続的な体制を作りなど課題もあるが、更なる地域活性化や交流人口拡大など、協議会としてもみなさんと一緒に考え、行動していきたい。本日は、最後まで長時間ご参加頂きありがとうございました。

閉会